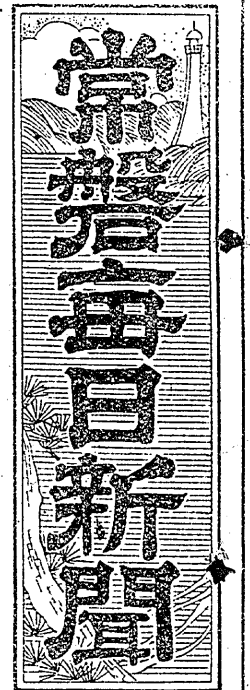


刊夕日一廿月二十



定価 一紙五銭 一月一元五角 三月四元 半年八元 一年十五元
廣告料 五銭 一頁一週間一元五角 一頁一月二元 一頁三月五元 一頁半年八元 一頁一年十五元
印刷所 常磐印刷株式会社
電話 六三〇
社 常磐印刷株式会社

劇と音楽の態 [五]

磐城中学校 根本邦雄

四、バルカロール
船唄はもとヴェニスの人
人がゴンドラの舟をあや
つるに歌つたものである。
これから各国でこの様な船
唄が歌ふ様になつたとされ
てゐる。「ホフマンの船唄」
は知らぬ人がない位である
歌劇の「マリノ、フアリエ
ロ」「フラ、デ、マ、ロ」
「マサニエロ」等の中にこの
船唄が折込まれてゐる。我
邦で云ふ追分がこれから來
た様なものである、かうし
た船唄は徐かな美しい曲で
拍子は八分の六拍子が普通
で強拍弱拍が交互に進みあ
だかも船は波のまにまに、静
かな動搖にあひ高くゆられ
又は低くゆられ或いは船の
權を漕ぐ手振りにもおもは
せるはこの船唄なのである
五、ローマンス
之は中古に愛の詩を誦つ
たもので嚴格な形式にとら
はれないのが特色らしい、
したがつて作者個人の感情
表現に重きを置くところが
此のローマンスの生命であ
る。非常な徐かな美しいメ
ロデーなので器楽曲聲楽曲
共にある時折ヴァイオリン
曲として私達の耳に入る場
合が多い様である。

文藝募集

モツアルトの歌劇「フィガ
ロの婚禮」マスカーニの歌劇
「カヴァレリア、ルステイカ
ナ」中に美しいローマンス
がある
六、カンゾナ
昔マドリガルと云ふ一詩形
があつたが音楽家に依つて
三重奏四重奏などに作られ
た。これを指して音楽上で
マドリガルと云ふのである
然し古風な形式の聲樂で器
樂の力を受けない無伴奏な
ものであつた。このマドリ
ガルに似たのにカンゾナが
ある伊太利風の叙情詩でこ
れを作曲したのがカンゾナ
と云つてゐる。カンゾナは
マドリガルより自由な形式
をたどつてゐるのである。
七、カヴァティナ
カヴァティナも多くの歌
劇中に含まれてゐる要素の一
である。その意味は極めて
色々に廣く使はれてゐる歌
劇などである一部をなすな
どらかな獨唱曲を指す場合
があり即ちカヴァティナは
完全な一咏嘆調曲の意に用
ひられてゐる

綴り方

飛行機

平第一校第五 名尾卓朗

部屋で勉強してゐると外で
子供等が「飛行機だ、飛行機
だ」とさわぐ聲が耳に入る
「飛行機！」とばかり早速と
び出した。高く雲一つない
秋の空のはるか南方に三臺
の飛行機が銀色の翼をのび
してこちらにとんでくる。
丁度それが青い廣い太平洋
を靜かに進む三さうの船の
やうだ。よく夢に見る。よ
く話を聞く「ブロンブーン」
とプロペラの音も機体も大
きくなつてきた。道を行く
人も立止つて上を見てゐる
飛行機はやがて僕等の頭
の上を通りぬけた。その時飛
行士がハカチを振つてゐ
るのが見えた。僕は思はず
「萬歳」とさげんだ。僕はつ
くづく感じた。「これから
は眞に空の時代だ」「模型
飛行機でさへ九百米も飛ぶ
優秀なものが出てゐる。
僕等少年これからは飛行士
になり日本の進歩した飛行
機を外國に知らしてやらう
飛行機は縣社の森に消えた

市原醫院

平町 田町
電話二一四番

齒科醫開業廣告

平町 鍛冶町
吉田屋吳服西隣り

東京齒科醫學士中村文一

中村齒科醫院

十二月十五日より口腔外
科齒科一般の治療に従事
致しました



玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

革靴自製部新設

注文靴 修繕靴
親切丁寧 請合

●高級ゴム長靴 マルトモビル内
●五圓均一靴
●各種靴類
菊地靴店
電話呼四三六番

移轉お知らせ
毎度有難ふ相變ず御引立を願ひます
七五三お祝履 特 價
大賣出し

新妻はきもの店
平町(元店)の向ひ
電話 五七四番

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

保險は人生の鍵

山は富士、保險は三井

一、老へ行く先の慰安になさんとする人々は……三井生命へ
一、將來獨立の生計をなさんとする人々は……三井生命へ
一、遺族の爲に扶助金を造らんとする人々は……三井生命へ
一、人生は朝露の如し萬一に備ふる人々は……三井生命へ
一、貯金よりも最も有利なる方法を求めんとする人々は……三井生命へ
一、子息を完全に教育せんとする人々は……三井生命へ
一、今日は人の身明すは我が身と思ふ人々は……三井生命へ
一、保險加入の有無は自己信用の尺度と思ふ人々は……三井生命へ
一、保險は身の爲め國の爲め轉ばぬ先の杖花も實もある三井生命を御奨め致します

三井生命平駐在社員 福島 寛利
平町紺屋町二
三井生命代理店主幹 佐藤 永春

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番

月曜言論

背後の激勵

本紙に連載されて居る平青年團其他平町各種團體の働きに依つて募集した満洲の我が軍に贈る慰問金品を見るに、其の姓名と其の金品を比較対象する時、種々な意味に於て深く考へさせられ興味を盡さぬものがある。金品に大小の差こそあれ、國を懐念慮殊に嚴寒に健闘する我が將士に寄する熱誠に變りはない。此の國民的熱烈なる支持聲援あつてこそ、更らに一層我が將士は異境の曠野に獅子奮迅の猛勢を揮つて匪賊討伐の上、櫻咲く國に生れた男子の本懐を示し得るものであると信ずる。昨今の満洲の情勢に依ると張學良部下の錦州軍は、今や正に全く其の戦備を整へて攻勢に出んとして居る、我が最後の通牒である關外撤兵の要求も必らずや彼れの一蹴に逢遇する事は火を見るよりも瞭らかである、我國もとより戦ひを好むに非らずとするも、事此處に至つては己むに已まれぬ大和魂に依つて一舉武力の發動に待たぬばならぬ、蓋し今後の事態こそ國民の飛耳張目に價すべき多くのものがあり、且つ舉國一致の心構へに一層の緊張を要する点大なる意味に於いて更らに一段背後よりの激勵を傾倒すべきである。

商港急速實現の

本格的運動

關係町村が呼應して 平小鐵道も復活運動

石城郡小名濱商港の復活問題は大養内閣の出現と共に地元町民により熱心な輿論を擡頭し既に小名濱交友會では運動準備に着手したが町當局では来る廿四日五日頃町會を開き具體的の運動方法を協議した上明年一月御用初め直後委員を上京せしめ政府要路に對し猛烈な復活運動を起すことになつたが更らに南港と同一運命に置かれる平小鐵道の建設復活に就いては小名濱、平飯野、鹿島、玉川の各關係町村が近く打合せ之れまた急速實現の猛運動を開始することになつた。

石城産業組合

事務指導講習

石城産業組合では本日午前九時より團體事務所樓上に各町村産業組合員を招集年末に於ける事務の指導講習會を行つたが講師は同組合の木田氏であつたと。

平町外七ヶ村

俵米品評會

出品二百余點

既報郡農會並に販賣利用組合聯合の平町外七ヶ村の俵米品評會は本日より町の

等は十時より平穀物検査室に是等出品物の鑑定審査會を行つたので近く等級成績を發表される筈である。

出征兵の武運を

毎朝縣社に祈願

零細な小使錢を持寄り 滿洲兵へ慰問金

滿洲出征兵士に對する各方面の熱誠は溢れるばかり殊にいたいけな兒童達が貰え貯めな零碎なお小使錢を據出して慰問せんとする純情涙ぐましさもあり平第二小學校尋四の二組大和田智恵子さん外から左の如き手紙に持ち寄つた金二圓五十錢を封し本社に寄託して來た。

(原文のまゝ) 寒い滿洲で御國のために命もおしまずお働らさ下さる兵隊さんほんたうにありがたくな心強うございませう、あの廣い滿洲の雪の中を進軍して敵をやぶつて下さることを聞き私達はいうれしくてとび上つて喜んで居ます、此の頃は平の地もビユウ〜とから風がふさまはしづいぶん朝夕の通學は寒いですが「なこの位のこと滿洲の兵

災害扶助講演 平署會議室に於いて廿三日午前十時より縣保安課主催にて労働者災害扶助法及労働者責任保險法に關する講演會を行ふが講師は保安課の工場監督官補前東喜七氏であ

石城郡出 身在滿兵 慰問金品

本日現在

- トミ子 松本貞子 熊谷節 遠藤光子 猪狩幸子 鈴木政子
- 播穂小路報 (十圓) 新井サダ(二圓) 門傳清吾(一圓) 大須賀元助 堀喜一 武田清次郎 長谷川浩太郎 安藤金次 酒井清代 正 永井樹造 遠山稻吉 吉田正夫 増田梅藏 長澤清則 千葉彦治 田村岩雄 阿部コト 青木保太郎 清水好正 笹生仁一 鈴木一夫 佐藤長治 (五十錢) 助川彌 志賀子之根 草野留直 伊藤寅市 根本幸松 深谷常松 高田二早 堀井新太郎 高橋勝吉 佐藤篤二 横山忠二 海野誠平 味岡子之松 吉田正 星山文七 鈴木濱吉 吉田弘 新田目喜三郎 瀨尾善之進 草野廣吉 大里金丸 大瀧彦次郎 根本貢 梅花彦彦四郎 吉井要人 矢野浩一 前澤文太郎 加藤梅之助 鈴木才次郎 吉畑定次郎 奥津鶴次郎 馬目吉五郎 山岸帝作 大和田佐四郎 無名生 佐藤喜代三 三浦金五郎 鈴木弘一 廣木富之助 篠原忠次 大谷喜平 村上辨治 小松書店 松本源吾 渡邊トミ 菊地武雄 萩ソノ 武藤次郎 三須藤ハル 大魚藏

- 大平郡治 金成三武男 鈴木米吉 菊地喜市 長谷川利助 鈴木二郎 齊藤健 齊藤茂次郎 小野鶴松 岩瀬重喜 鈴木軍司 松本己之松 前田岩吉 小野美則(四十錢) 鈴木忠正 根本辰夫(三十錢) 松本ヨシ 鷺谷三郎 江尻國政 丸山儀三郎 菅沼倉次郎 小室牧之助 横山清助 三浦金五郎 吉田光夫 青木次男 佐藤富義 高崎晴明 渡邊勘大夫 小松マツ 宮内金吾 久橋道男 野澤トク 小泉英治 永木仁平 高橋幸 大河内久滿 染野伊三郎 片桐重治 渡邊忠 廣木榮之助 丸山梅子 小坂部忠次(二十錢) 北野清之助 渡邊久星クニヨ 佐藤定 田島三吉 西原雄藏 荒木良男 徳竹正左工門 馬上サダ 青山貞次郎 吉畑一男 鈴木房吉 根本長一 廣澤フヨ 清水只弘 郡司春喜 會田義恵 森田ツヤ 渡邊リウ 金成

- 幸次郎 吉田常代 小賀坂重治 村越光雄 安藤袈裟藏 成田米治 相澤淺次郎 根本嘉吉 相良敬之助 伊藤サイ 須田甚太郎 遠藤修治 強口元治 國井留藏 本田初吉 高木政治 木田ノブ 木村勝右工門 山澤カケ 松本義直 石田義一郎 菊地光國 先崎未藏 仲井定次郎 若林藤二 片岡徳十郎 浦部松之助 矢内忠(十錢) 吉田森之助 佐藤清八 原田庄次郎 牧野好貞 木下ツル 小林久藏 原富治 湯澤鶴次郎 錦織熊治 西川末吉 鈴木長治 林釘次 永山定吉 室井徳治 瀧川チサ 櫻井健治 宮部キミ 大内樹壽 信夫留吉 大石治助 猪狩ヒラ 藤原ウタ 八木澤フユ (十五錢) 大形茂治 藤田軍次郎 藤藏長治(手拭二十本) 色川勝三郎(手拭百本) 石輪十八個 籠詰十個 吉田煮六個 ハナ紙四束 雜記帳用箋四冊) 江口忠一(梅干五貫目) 柴田長助

貳男義夫儀急性肺炎にて東京五反田病院に於て療養中の處拾貳月拾八日午前六時四十九分死去仕候に付此段御通知に代え謹告仕候

追て貳拾貳日午後貳時より參時まで自宅に於て告別式執行途中葬列を廢し平町字古鍛冶町菩提院墓地に埋葬仕候 昭和六年十二月二十日 父 永野 柳 造 外親 戚 一同

滿洲事變に奮起した

看護婦志願の女性

植田町の瀬谷吉野(二)さんが

血判の願書を提出

石城郡植田町字猿田五瀬谷吉野(二)さんは今回の滿洲事變で傷ける我が出征兵士の看護をしたいから是非看護婦として採用して呉れと十九日町役場へ血判願書を出したが婦人が血判の願書を出したのは是が縣下で最初であらうと

人を呼ぶ

平の吳服祭

今回の政變による諸物價の暴騰に際し吳服類も騰貴を見たと平吳服商組合では顧客本位の奉仕をせん爲に値上をせず廿日より聯合大賣出を催し賞品付にて大人氣を呼んで居るが廿日初日の福引當籤者は左の如くである

平の吳服祭

幸運の人々

(特等)内郷村 岩間かめ (一等)勿來町軍司く、南町織田自轉車店、錦村田村田四郎、長塚吉田政吉、好間高木ハナ、富岡三瓶千代(二等)入山高橋庄之助、川前高藤、神谷鈴木ふさ、高久箱崎竹一郎、綴渡邊、勿來小野から、好間吉井、平遠沼龍輔、鹿島黒木義明、好間鈴木常吉、平よねや、平

町天柴尊二、平關原硝子店、片寄藏吉

石城郡田人村字南大平青年團では毎月講演會其他の方法で團員に郷土愛の精神を養つて来たが明春よりは同青年團で數百匹の飼兔をなし其利益を以て郷土的公共

清野女史美舉

田人青年活動 貧困者へ施米

平南町平産婆學校長清野キヨ氏は年末に當り生活に窮し食事を出来ぬ氣の毒の人々へ白米一俵の寄贈を本日平署人事相談所に申出た

巖谷氏の講演行脚

平からけふ小名濱へ...

木兎莊の即詠二首

お伽の小父さん巖谷小波氏は既報の如く十九日午後九時來平住吉屋本店に投宿廿日は多數希望者の切願を容れて揮毫を試み廿一日午前十時半より磐中で講演午後十二時半豫て氏が選文揮毫した菅の澤開鑿功勞者記念碑建碑式に臨み午後一時より磐女、同二時より平第一校で講演し終るや自動車にて一路小名濱町に至り新米旅館に一泊の上、廿二日小名濱小學校、入山炭礦自治會館、午後内郷村磐城炭礦勞務課の懇請に基き同地昭和館で講演の午後五時

十三分綴驛發で歸京することなつた、因に巖谷氏は廿日夜高久病院長に招かれ木兎莊に於て主人側の高久院長赤羽氏と巖谷先生並に川崎本社長とが冬の宵を歡談したが席上巖谷氏は左の二首を即詠した

高久大人の小宴にて 剝製の木兎にも影や冬の月 木兎ほとに腹ふくらせて まからむか

内郷の慰問金 石城郡内郷村字宮火防組では豫てより在滿兵へ慰問金を贈

るべく同宇内を四方部に分割寄附募集をなした結果合計六十八圓五十五錢の慰問金を得たので昨廿日代表者が村役場に贈呈した

平撞球試合 田町平撞球場では昨廿日同所に於いて撞球フアンの優勝戦を行つた結果入賞者左記の如くである

(一等)山野邊義政(二等)松永憲一(三等)佐川傳之助(四等)安藤金次(五等)鷲廣治(カップ優勝者)井坂久吉

豆腐屋を看板に 實は空巢専門の賊

十七の少年捕はる

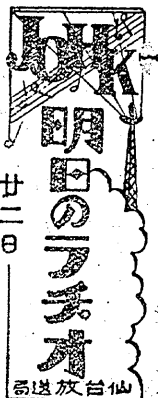
最近平町及び四倉、小名濱等にコン泥の被害瀕發し犯人は行商人らしいとの事に平署で密かに警戒中昨廿日午後九時頃靴他を入れた大籠を背負つて長橋町地内を徘徊する少年を平署員が取調ると同人は内郷村字御厩豆腐行商人似鳥三郎假名十七と云ひ本春以來豆腐も思ふ様賣れぬ爲め悪心を起し賣り込に這入つてはコン泥を働き田町大塚靴店で靴二足を窃取せる外四倉小名濱、湯本等に行商しては窃盜を働き約五六十件被害五六百圓に達する模様であるが去月中旬の各小學校での盜難も同人の所爲であらしく引つゞき取調中

年賀郵便第一日

平局一割四分の増

平郵便局では既報の如く廿日から年賀郵便の受付を開始したが第一日目の受付は千三百三十三通で昨年の同日受付千七百七十一通に比し一割四分の増加である、年賀郵便は茲々二三年來漸減の状態を示し不景氣の折柄本年は昨年より幾分減ずるの勢であつたが滿洲事件並に今回の政變により多少人事の動きに伴ふ増加を見込まれてゐるが總數に於て昨年を超すやうなことはないうと觀られてゐる

キリスト降誕祭 材木町の信榮幼稚園では二十四日午前十時より同園に



報豫氣天

今晚も明日も北西の風晴

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) 名作物語巖窟王(白鳥座) 後六、三〇(家庭電氣の講義) 博士森田公平 後八、〇〇(漫談「ボリナスは貫つたが」立花實) 後八、三〇(俚語) 山下眞 潮外 後九、〇〇(獨唱と管絃樂) 獨唱河原喜久恵 東京ラ

明日の部

デオオーケストラ 後九、四〇(時報) 全國ユース 氣象通報 番組豫告 前九、一〇(料理献立「猪口物宇治和へ」小野寺嘉) 前一〇、三〇(家庭講座「正月の盛花實習」佐藤一)

平町不用文簿入札

平町役場文簿三百八十九頁目(日本紙、洋半紙)の拂下げを來る廿四日午前十一時平町役場で入札を執行するが入札保證金は百分の五

平職業紹介所報告

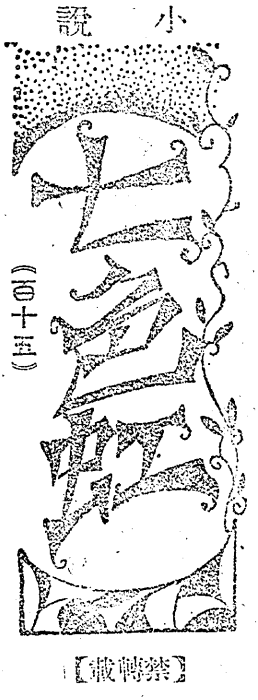
△求人の部 △御飯炊 男女いづれも可五十才前後月給五圓位(赤井村某炭礦飯場) △店員 二十五才以下住込給五圓位(某新聞平專賣所) △大工 二十才前後中年者も可通勤給(請負古摩澤某) △女店員 二十才前後高女卒以上計算に達せる者通勤給料面談田町(某商店) △店員 三十才前後九十以上通勤日給一圓位(田町某商店) △求職の部 △探炭夫 廿五才 高一修(内郷綴某) △雑夫 四十九才高卒通勤を望(播磨小路某) △産婦看護人 五十八才無學經驗有通勤日給三四十錢位望(播磨小路某)

平町人事

△早川富岡町長 同右 △千葉辨護士今朝平發列車にて福島へ 回出生 △番匠町四十當時山梨縣南郡普郡谷村町藤城充氏三女惠美子 回婚

磐中の同窓會

磐城 中學校第廿九回同窓會は明



渡邊 默禪作 布施平八郎 畫

怪しの手紙 (1) 『あら、如何なすつたんでせう。お見いさん、お見いさん。早く一寸其處にある赤酒をあげて下さい。早くッ……』

源之助も清作もぎよつとして立揚がつた。源之助は戦く手にふるふる震へながら心もとなく大急きにとりあへず赤葡萄酒をとつて蓋についだ。そして銀のさじを突然父の口許に持つていつた。清作は大聲に看護婦を呼んだ。茶の間の方に行つてゐた看護婦たちは急いで駆附けて来た。

『あらまあ、且那樣如何遊ばしました。御氣を確にお嬢様御心配はいりません手前が一寸夫れを差上げます、どうが彼處に御休み下さいませし。』

と看護婦は何にやう樂らしいものを懐中から取り出してこれをオブラートに包み急いで水と共に其の病人の口にそゝぎ込むやうにして差入れた。而して頻りと手をのばして胸の邊りをなで、居つたのである。側に居て居つた源之助も清作もやれ／＼と言つた案梅に漸時無言のまゝでぢつと手を組んだまゝ源之助は父の眠

顔を眺めて居たが良心の腦みは胸に迫り來つて自分もどうやら氣が遠く成りそうになつた。茫然と考へ込んでしまつた。

磯子の別荘番儀平は横濱野毛坂の鳥部花子といふ家を尋ねあて、先づ其の門標が友の名前であるのを訝つて居つた。格子戸をあけて玄關に入ると家のなかは人氣がないかと想ふほどにしんとしてゐた。案内を乞ふと出て來たのがお炊どんらしい女だつた、文箱を受取つて引き込んでいつてから



のを渡した。儀平は表へ出てからちやうど眞向ひにある下駄屋の店に寄つて、そして婆さんから頼まれた履物を買つて緒を上げさせる間に其店の内儀さんにある鳥部の家の様子を聞いて見た。『然うですね、手前ども

暫く待たされた。奥の方から若い女らしい人の咳ばらひが洩れて聞えたのであつた。友禪の首巻をつけた可愛らしいちんが鈴の音もろともちよこ／＼と出て來て直ぐと何處かへ去つて了つた。儀平は退屈紛れに萬年青の鉢の載つてゐる杉柁づくの下の下駄箱の蓋をそつとあけて見ると、美しい鼻緒のついた女草履や日和下駄が二三足ならんでゐるばかりであつた。

ではよく分りませぬよ。一体あすこのお家は何に成されて居られるのかお向ひですがついでに御主人の顔を見たことがありませんよ。『引つ越して來てからまだ幾日にもなりませんからねえ。近所ぢやあななんでもお婆さんだともいふし、どツか金持の娘さんだともいつてゐますしはつきりしませぬがね。何でも年の頃は二十四五の恐ろしいハイカラさんだと言ふことです。時々自動車でどつかへ出かけていくのを見かけますと隣の人が申して居ましたよ。然うかと思ふと變な女が出たり入つたり、偶には立派な服装をした男の方や、どツか艶けた様子の藝人らしいのも時々尋ねて來るやうですが、私達には何にが何にやらさつぱりえたいが解らんお家ですよ。』

均一大賣出 マツモトヤの 店頭十錢均一の山 是非御来店を...

七五三のお祝着 可愛らしいお様子方 に 洋服。オバー。マ。ン。子。帽。シ。ヨ。ル。等々 平四 ツルヤ 電一〇四

美味! 芳醇! ひとら正宗 山崎合名會社 電話一〇番

りん病 永らく悩む人の福音 天下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥 全國知名新聞 朝日、東京日々、大阪毎日、富士、雑誌 推獎 講談俱樂部、主婦之友廣告乞御參照 古は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし慢性淋病、こしけ、濁濁の病みは不思議に止り連服するも絶對胃腸障害なき各藥であります。 尙ほ此の藥は責任速効藥で二日內服して効なき時は論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢性、悪性の人は七日以上服差して下さい。 回美本淋病治療書無代進呈(此の新聞各記入申込者に付前金申込者には送料無料、新品送藥す。 代金引換廿三錢手数料金納の事。 藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓 慢性用(赤箱) 一週分 五圓 平町古鍛冶町一〇 阿康藥舖 縣社ノ下(電話四四番)

磐城名産 鰹節と鹽 魚問屋 店理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 番三一電 目丁四平 専門 内科一般 宅診 内科は何でも診療致します 往診 呼吸器病ばかりではありません 平町南町六五 川井内科診療所 醫學士 川井重子 女醫 川井安子 電話一八一番